

教授

原 頼子

■ 学歴

1. 2011 年 久留米大学大学院医学研究科博士課程 修了

■ 学位

1. 2011 年 博士（医学）

■ 研究分野

1. 慢性期看護学
2. がん看護学
3. 看護教育

■ 研究キーワード

1. 糖尿病患者の QOL
2. 自己管理行動
3. がん治療中の糖尿病患者

■ 研究課題

1. がん治療中の糖尿病患者は、優先されるがん治療の副作用や、使用する薬剤の影響によって、血糖コントロールが困難になり、今までできていたセルフケアがうまくいかないことで、つらい思いを抱く。そこで、がん治療部門と糖尿病部門による領域間の連携システムを整えること、治療ガイドラインが整備されることはがん治療中の糖尿病患者には重要なことである。看護支援としては、患者の自己効力感を低下させないための看護師が行うエンパワーメント支援がある。本研究ではその有効性について検討する。
- 2.

■ 担当授業科目

1. 成人看護学概論（前期）（看護学科）
2. 成人慢性期看護方法論（後期）（看護学科）
3. がん看護学（前期）（看護学科）選択
4. 成人看護学演習（前期）
5. 成人慢性期看護学実習（後期）
- 6.
- 7.
- 8.
- 9.
- 10.

■ 授業を行う上で工夫した事項

※ 助教・助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項

1.	授業科目名【成人看護学概論】 発達段階ごとの成人の特徴や、発達課題、成人期に多い疾患の特徴がイメージできるよう、図や表を取り入れ、理解しやすい資料を作成した。また、後期の成人慢性期看護方法論につながるように、事例を使用し、生活習慣が及ぼす影響、予防行動の必要性を考える内容にした。
2.	授業科目名【成人慢性期看護方法論】 看護形態機能学の知識は疾患の理解に必要であり、その上で、効果的な看護を考える思考過程を作るためにアセスメントを重要視し、必要なケアを判断し、有効な看護を考える過程を何回も繰り返せる教材の工夫を行った。
3.	授業科目名【がん看護学】 がん看護学では、がんの病期ごとに患者の看護を考える必要があり、治療中の心理的問題にも初期から対応していく全人的痛みを緩和する看護も必要である。またがんが進行していくことで、終末期の症状緩和、家族へのケアも必要である。体験したことがない学生が多いため、DVD や動画を使用し、事例を基にイメージしながら看護を考える講義を行った。エンゼルケア(死後のケア)について DVD を使用し、手順や注意点、人の尊厳を守ることについて講義をしている。
4.	授業科目名【成人慢性期看護学実習】 看護学実習は、知識に基づいて患者に起こっている問題をアセスメントし、必要な看護を考えることを実践する機会でもある。そこで、電子カルテだけでなく、ベッドサイドに行き、患者のことを知ることから、看護に必要な情報を増やし、アセスメント、判断につなげることができるような思考過程ができるよう指導を行った。計画に沿って実践したことは、評価、振り返り再考することで、患者中心の看護が実践できるように指導を行った。

■ 学会における活動

	加入時期	所属学会等の名称	役職名等（任期）
1.	2002 年 4 月～現在に至る	日本糖尿病教育・看護学会	学会誌査読委員（2018 年～2022 年）
2.	2004 年 4 月～現在に至る	日本看護科学学会	
3.	2008 年 4 月～現在に至る	日本糖尿病学会	
	2010 年 4 月～現在に至る	日本がん看護学会	評議員（2013 年～2016 年） 学会誌査読委員（2016 年～2018 年）
	2010 年 4 月～現在に至る	日本緩和医療学会	
	2020 年 4 月～現在に至る	看護シミュレーションラーニング学会	

■ 研究業績等に関する事項（2024 年度）

	発行又は 発表の年月	著書、学術論 文等の名称	単著・ 共著の別	発行所、発表雑 誌等又は発表学 会等の名称	概 要
（著書）					
1.					
2.					
3.					
（学術論文）					
1.					
2.					
3.					
（翻訳）					
1.					
2.					
3.					
（学会発表）					
1.	2025. 2	終末期肺がん患者の最期の療養場所をめぐる患者と家族の揺れに対する訪問看護師の認識と関わり	共	第 39 回日本がん看護学会（於札幌）	① 肺がんの終末期に在宅で過ごす患者を看ている家族が患者の病状に伴い揺れる気持ちを理解し、支援する訪問看護師の実践を、訪問看護師のインタビューを通し、質的に分析を行った。 ② 共同発表者：高津康弘、原 頼子、桐明あゆみ ③ 第 39 回 日本がん看護学会学術集会抄録（P137）
2.					
3.					

■ 外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）

（1） 共 同 研 究				
	研 究 題 目	交付団体	研 究 者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 （単位：円）
1.	喉頭全摘出者の退院後の QOL 向上を目指す継続看護チームの介入: RCT による縦断調査	科学研究費	（○小竹久実子、鈴鴨よしみ、甲斐 一郎、岩永 和代、高橋 綾、羽場 香織、栗田 麻美、	18,460,000 円

			石橋 曜子), 原 頼子, (新 裕紀子, 太田 一 郎, 上村 裕和)	
2.	腹膜透析を受ける高齢者と 家族を支えるテレナーシ ングシステムの構築と検証	科学研究費	(○桐明あゆみ)、原 頼子、(河原田康貴、姫 野深雪)	4,680,000 円
3.				

(2) 個人研究

	研 究 題 目	交付団体	交付決定額 (単位: 円)	備 考
1.	がん治療中の糖尿病患者の セルフケアを支援する領域 間連携システムの構築	科学研究費	2,860,000 円	
2.				
3.				

■ 社会における活動

	任 期 期 間 等	団体・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等
1.	2008 年～2023 年	福岡県糖尿病療養指導士協会養 成講習会	認定委員
2.	2015 年～2022 年	市民公開講座「グリーフケア」	講師
3.			

■ 学内における活動等（役職、委員、学生支援など）

	任 期 期 間 等	会議・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等
1.	2024 年 4 月～現在に至る	西南女学院大学看護キャリアセ ンター	センター長
2.	2024 年 4 月～現在に至る	FD 部門会	委員
3.	2024 年 4 月～現在に至る	外部資金導入推進プロジェクト	委員